

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270201132		
法人名	医療法人 翠山会		
事業所名	医療法人 翠山会 グループホームなかよし ユニットA		
所在地	長崎県佐世保市赤崎町81-3		
自己評価作成日	平成28年11月1日	評価結果市町村受理日	平成29年1月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	平成28年12月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

清潔に心がけ、毎日の掃除は徹底して行っています。花のある環境作りで心がけ精神的に落ち着いて穏やかに生活して頂けるよう配慮しています。
特に食事には力を入れ、栄養のバランスはもちろん、日本の伝統を大切に行事食(正月・盆・彼岸・節句等)を楽しんで頂いています。
身体・精神能力を低下させない為、レクリエーション・手工芸、音楽療法を取り入れ楽しみながらレベル低下を防ぐ支援を行っています。
また季節ごとに行事を企画し、花見(桜・バラ・菖蒲・コスモス等)、公民館祭り等にお連れしたり、母体のすいざん荘の行事に参加させて頂き、外出の機会を多く持つようにしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

母体の医療法人とは協力・連携体制があり、系列の老人保健施設を中心に地域と交流している。5項目からなる基本理念と利用者の発した言葉からサブ理念「元気で 楽しく ゆったりと」を掲げている。利用者を職員全員で見守り、日々記入する「ADL気づきノート」は、支援の基礎となっている。その情報の豊富さが、職員担当者制での介護計画作成に繋がっており、個別ケアの質の高さに反映している。法人の苦情処理委員会は、各施設から出る苦情報告を全体で共有し、サービスの質の向上に繋がっている。さらに運営推進会議で報告し、運営の透明性を図っている。法人の職場環境整備や職員育成体制は、働きやすい職場と職員のやりがいに繋がりが、サービス提供者として意識の高さに反映している。利用者とは正面から向き合い、利用者・家族が、ここに巡り会えてよかったと思えるホームである。

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域に開かれたものになるよう、地域の一人として生活出来るようにとの理念を掲げ、職員全員が理念を共有し、実践支援していくように努めている。	職員が理念に込めた思いを共有するよう、玄関やリビングに理念を掲示している。新人職員はオリエンテーション時に説明している。「能力を最大限に発揮」「地域社会の一員」という理念の実現に向け、利用者の得意分野を把握し、活躍の場を地域にも広めながら実現に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の公民館祭りに参加させて頂いたり、行事の案内をして来て頂いたりしている。 ホーム近くにある食堂から出前を取ったり、地域の商店から食材を配達して頂き、交流する事が出来ている。	法人が地域交流の基盤を築いている。ホームは小・中・高校の職場体験や大学生の実習を受け入れ、また、保育園児やボランティアの訪問がある。2ヶ所の公民館祭りに利用者の作品を出展し、利用者で見学に出向いている。食材は地域商店を利用するなど地域住民と繋がるよう取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	小・中・高校の社会科の学習や、短大の福祉科の実習の場として提供し、交流が図れていると同時に認知症への理解も深まっていると感じている。 下校時、トイレを借りに来たり、時間を聞きに立ち寄り、交流をもつ事が出来ている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回の会議を開き、利用者様の近況報告や実際の支援の報告等を行い、参加者様からの率直な意見を出して頂き、サービスの向上に活かす様にしている。	年6回、規程メンバーで開催している。ホームや利用者の近況を報告し、意見交換している。中でも苦情・事故報告は、運営の透明性に繋がっている。参加者の提案から、米軍ボランティアを受け入れた事例もあり、参加者の提案を積極的に取り入れている。ただし、会議欠席者への報告がない。	運営推進会議議事録から、有意義な会議状況が窺える。規程メンバーは全会議の様子がわかるように、欠席者への対応について検討を期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	疑問点などは県・市の長寿社会課や包括支援センターに相談し、解決していく様にしている。 包括支援センターからは入居者の紹介等もして頂いている。	利用者に関する質問や手続きなどは、担当課へFAXし、尋ねている。法人が市から介護教室開催の委託を受け講師として関わっている。また、包括支援センター主催のいきいきサロンで職員が音楽療法を指導している。行政主催の研修に、職員が参加するなど連携に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	言葉使いも含め全職員、身体拘束について正しく理解しており拘束しないケアに取り組んでいるが、1階玄関のみ1階に職員が不在の時は、警察からの指導もあり、不審者等の侵入防止の為施錠を行っている。	法人の身体拘束委員会があり、会議内容を報告し共有している。また、外部研修で言葉掛けや対応を勉強し、報告書の回覧や職員会議の報告で職員は理解している。新人職員は入社時の新人教育に組み込み指導している。1階は施錠しているが、各ユニット間は自由に行き来出来ている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人全体で取り組み研修等に参加し学ぶ機会を持っている。 特に新人研修では力を入れて指導している。言葉使いにも折に触れて、その都度注意して行く様にしている。 外泊後は入浴時等に異常がないか確認する様にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度の理解を深め、現在は利用している方はおられないが、今後必要とされる方には、ご家族の意向を聞き仲立ち出来る様にしていきたいと考えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居・退居時には利用者様やご家族様に対して十分な説明を行ない、理解・納得して頂けるよう努力している。 一方的な説明ではなく、必ず、「何か質問はありませんか?」と問いかける様に心がけている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常の会話の中から不満や要望を聞き取り、ケア会議で検討し、改善する様に努めている。 ご家族の面会時に要望を尋ねたり、立ち話ではなく、お茶を出し、ゆっくりした気持ちになって頂き話しやすい雰囲気作りを行っている。 ホーム便りでも呼びかけている。 運営推進会議に参加して頂き、頂いた意見を運営につなげている。	苦情相談窓口や処理手順は明文化し、契約時に家族へ説明している。利用者や家族の苦情は、月2回開催の法人の苦情処理委員会にあげ、些細な苦情も丁寧に対応している。ホームでは相談支援記録へ記載し、職員で共有している。毎月発行の「なかよし新聞」にも毎号、意見要望を呼び掛け、抽出に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議やADL気付きノートから出てきた意見を受けとめ反映する様にしている。 日頃から話しやすい雰囲気作り心がけている。 行事の後にはその日の内に反省会を行い、次につなげていく様にしている。	職員はグループホーム会議、ケア会議で意見要望を出す場があり、ADL気付きノートにも記している。また、年1回自己評価表を基に管理者と面談の機会を設けており、管理者は職員に常に声掛けし、相談し易い関係を作っている。法人は5連休取得など働き易い職場環境を整備し、職員の意見や要望は検討し反映に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は管理者、職員個々の状況や能力を把握し、給与水準や資格取得の支援等、やりがいを持って働ける様努めている。 また、永年勤続者や研究発表者に対しての評価や労いの言葉をかけ、就業意欲の向上に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	積極的に内外の研修を受ける様に働きかけ多くの職員が受講出来る様にしている。 研修報告を回覧し職員全体のスキルアップを図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会の活動を通して、交流を持ち、勉強会の参加で知識の習得が出来ている。 相互訪問を行う事でよい物を取り入れていき質の向上につなげている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談で生活状態や生活歴を把握するよう努め、本人の心身状態や思いに向き合い安心して利用を始めて頂ける様に心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学訪問時に出来るだけ多くの会話を持ち要望等気軽に言って頂ける様な雰囲気作りをし安心して利用を始めて頂ける様努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の面談で利用者様やご家族の状況を知り、他の事業所からの情報提供を受け、必要なサービスが提供出来る様に支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	季節に合わせた料理作りや漬物作り等、昔取ったきねづかを発揮出来る様な場を作り、長年培われた知恵や知識を頂き支えあう関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族関係を理解し、外泊が無理な方には外出の機会を持って頂くよう働きかけたり、行事参加へのご案内をして一緒に時間を共有して頂ける様にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方の訪問時には、お茶を出し、ゆっくりと過ごして頂ける様に配慮し、大切な関係がより良いものになる様支援している。 電話等も希望される度に対応する様にしている。	職員は、利用開始時のアセスメントを基に、利用者との会話や家族などから聞き取り、利用者の生活歴を把握している。面会には家族や知人の他に教会の神父や牧師が訪れている。家族の支援で馴染みの美容院や墓参りに出掛ける利用者もいる。また、職員は電話の取次ぎや手紙を書くことを手伝うなど馴染みの継続支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日レクリエーションを行い、他のユニットの方との交流や、洗濯物干し、シワ伸ばし、洗濯物たたみ等、複数の方との関わり合いが出来る場を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居され他の施設や病院へ移られても面会に行く等つながりを断ち切らない様にしている。 亡くなられた時には必ずお悔みに行き、ご家族の気持ちになってお見送りさせて頂く様にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の言葉や日々の行動や表情から思いや要望を読み取り、スタッフ全員が情報を共有し、本人主体の生活が出来られる様に支援している。	職員は利用者とは日中接しながら、傾聴の時間を作っている。会話が困難な場合は、筆談や思いや行動を記したカードを活用し、意向の把握に努めている。朝のレクリエーション参加や手芸など、その日の思いを汲んで支援し、利用者が自身の不安なことや苦情を職員に伝えることもある。職員は知り得た内容を申し送りして共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サービス開始前の調査で個人情報を把握し、全職員が周知し、可能な限りこれまでと同じ様な生活が出来られる様支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	業務日誌・申し送りノート・ADL気付きノート等を十分に活用し、小さな変化も見落とさない様に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族や関係者と話し合いを行い、それぞれの意見を反映しながら、ご本人主体の現状に即した介護計画を作成している。	介護計画は、長期6ヶ月短期3ヶ月の支援目標を作成しており、支援経過表から、支援内容の進行具合が確認できる。毎月ケア会議時に全職員が各利用者の気づきや支援内容の提案を书面化し、支援内容に反映している。担当職員は、日頃の会話の中から家族の思いを汲み上げ、支援内容の原案を作成し、同意を得て実践している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録、申し送りノート、ADL気付きノート等を細かく記入し職員間での情報の共有を行う事により日々の支援や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の状況により、通院や買い物支援等、ニーズに対応出来る様取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	小・中・高校の体験学習の場や短大福祉科の実習の場として提供したり、消防や警察からの協力を得て安全で豊かな暮らしを楽しめる様支援している。 米軍ボランティアからの木々の伐採等の協力も得られている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医と連携し適切な医療が受けられる様支援している。 月2回の往診があり、必要に応じて専門医や掛かり付け医の受診をご家族と協力しながら行っている。	専門医などへの通院は家族同行の下、継続している。利用者のホームでの状況を記載し家族へ渡し、適切に治療が受けられるようサポートしている。受診後は報告を受け、申し送りノートで職員は共有している。協力医の月2回の往診と毎週訪問看護の体制がある。緊急時の24時間医療連携体制が確立しており、職員は理解している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医の看護師に24時間いつでも相談が出来る様になっていて、日常的に行っている。 週に1回は実際にホームへ来て頂き健康チェックをしてもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先や家族に連絡を取り合い、情報交換や相談をしている。 早期退院・退院後の生活についても担当医や看護師からの情報を頂きスムーズに入院前の生活に戻られる様支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医や母体老健との連携が取れていて、特変時には24時間対応出来る様になっている。看取りについても、意志の確認を取り早期からの話し合いや関係者全体の方針の統一が図れる様努力している。同意書も頂いている。 グループホーム協議会の看取りの研修に参加し知識を深めている。	重度化・看取りに関してそれぞれに指針を作成し、利用開始時に家族へ説明している。利用者の体調に応じて、主治医と家族を含めた話し合いの場を設け、支援内容を確認し同意書を作成している。年3回内部研修を設け、職員の心構えやチームとしての支援について話し合っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時のマニュアルを作成し、日頃より訓練を行っている。(AED・吸引器) 勉強会や研修会にも参加している。 また、特変時には連絡網でスタッフが駆けつける体制も取っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	入社時より災害時の研修を行っている。避難訓練は消防署の指導を受けながら、年2回行っている。 母体の老健や近隣の方からの応援も受けられる様になっている。 非常食や飲料水も備蓄している。	年2回夜間を含めた消火・避難の自主訓練し、消防署へ報告している。敷地内の法人施設と連携しており、さらに地域協力体制もあり、訓練時には町内放送し連携を図っている。地震想定のマニュアルがあり、備蓄や持ち出し備品がある。ただし、運営推進会議でも議題になっているが、自然災害の訓練内容やマニュアル整備はこれからである。	昨今起こりえる自然災害について、いざというときに慌てず確実に対応できるようにホームとして考えられる対応、それに対する訓練について検討を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様への尊厳の気持ちを持ち、誇りやプライバシーを損ねる事が無い様、失禁時等の声かけは他の利用者様に気付かれ無い様さりげなく行う等、全職員に周知するようにしている。 人生の先輩として敬意を持って接する様に心がけている。	個人情報の取り扱いは契約時に家族へ説明し、同意の署名を得ている。また、職員は採用時に守秘義務の誓約書を提出している。排泄誘導は「部屋へ行きましょう」と声掛けし、申し送りは利用者には聞こえない工夫をするなど、尊厳とプライバシーを守る言葉遣いを心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の思いを伝えられる様な雰囲気を作り個々に合った言葉かけを行い、自己決定出来られる様支援している。 行事や花見等も自由参加としている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望に合わせてレクリエーションや入浴、手工芸等を行っているが、無理強いせず、ペースに合わせて過ごして頂ける様に支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合わせた洋服の組み合わせ等を一緒に考え支援している。 パーマやカット等は美容室より出張で来て頂いている。 行事参加の際には浴衣を着たり、お化粧も楽しまれている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の準備、盛り付け、配膳、下膳等能力に応じて参加して頂き、職員も一緒に同じ場所で食べ楽しみを共有している。 肉が嫌いな方には別の物を出す等配慮している。 誕生会ではご本人の好きな物を聞きお出しする様にしている。	献立は法人栄養士の指導の下、職員が利用者の希望を取り入れて立てている。利用者の嗜好やアレルギーに対応し、また、咀嚼に合わせ、ユニット毎に調理担当の職員が調理している。利用者は、野菜の下ごしらえや後片付けなどを手伝っている。季節の行事食や花見弁当、ちゃんぽんの出前など食事を楽しめるよう支援に努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量を毎食記入し食事量を把握している。 食欲不振の方には別の物を出す工夫を行っている。 夜間の水分補給も個々に準備し、自由に飲める様にしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛け・見守り・介助して口腔ケアを行い口腔内の清潔保持に努めている。 歯科受診の必要な方は往診で治療を受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	食事の前後や利用者様の表情を読み取り、トイレ誘導を行っている。 失敗されても他の利用者様に気付かれ無い様支援している。 また出来るだけオムツをしない様に支援している。	職員は排泄の自立支援を理解し、日中はトイレでの座位排泄を基本として支援している。介護記録に排泄状況を記録し、利用者の排泄パターンを把握し共有しており、さらに排泄状況の変化に合わせ、パッド類などを検討し、排泄の自立に向けた支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維質のある食材を多く取り入れ、水分量や食事量にも注意し運動を促している。 毎日10時に牛乳を飲んで頂いている。 排便状態を記録に残し排便困難な方には主治医と相談し服薬支援も行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週3回を目安に入浴を行っているが、ご本人の希望に合わせてシャワー浴や足浴で対応し、入浴を楽しんでもらえるよう支援している。	入浴は週3回を基本としているが、利用者の状態や気分に合わせて、曜日や時間を変えて支援している。車椅子の利用者は、シャワー浴に足浴を合わせて支援している。利用者職員は1対1の時間に会話が弾んでいる。入浴剤や菖蒲湯など使用し、入浴を楽しめるよう支援に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は出来るだけ活動して頂き、夜間の睡眠が十分にとれる様な働きかけを行っている。 室温や寝具の調整にも気を配っている。 午睡も自由にして頂き疲れられない様配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方内容を必ず確認し、用法・用量を把握している。 誤薬が無い様必ず複数で確認する様にしている。 他科受診の薬の受け取りにも十分注意し、服薬介助依頼書を頂いている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一緒に花の植え替えをしたり、つわやふき、竹の子の皮むき等をしたり、これまでの生活歴を活かした支援を行っている。 また季節ごとの行事に参加して頂き楽しんで頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節に応じた花見やドライブ、買い物支援を行っている。 年1回外でのバーベキューも楽しまれている。 可能なご家族には、外出・外泊の協力を頂いている。	地域の行事や桜、コスモスなど季節の花見に、車椅子の利用者も一緒に外出している。また、観光地や初詣に出掛けている。天気の良い日は散歩やドライブで、気分転換を図っている。その日の希望の外出は、家族の許可を得て支援している他、家族の協力も得ながら戸外に出掛ける支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時、買い物をされる場合はご自分で管理出来る方にはお渡しし、難しい方には一緒に付き添い支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	プライバシーが守られる様子機を利用し、居室で使える様支援している。 手紙のやり取りが出来る方には、切手・葉書の購入支援も行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花々を飾ったり、ネームプレートには季節感が感じられる様な飾り付けをしている。 レースのカーテンを使用し光に対しての対応をしている。 ホールにはテレビ・ソファを設置し、ゆっくりくつろいで頂ける様配慮している。	1階のホールは毎朝、レクリエーションに利用者が集い、2階3階の各ユニットは個性を生かしながら、華美、幼稚にならないよう季節感のある飾り付けを行っている。リビングはソファやテーブル、畳コーナーなど、利用者が思い思いに寛げるよう配置している。職員が1日3回清掃し、清潔で居心地よく過ごせるよう支援している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはソファを置き、和室もあり、エレベーターまえには木のベンチを設置し、それぞれ好きな場所で思い思いにくつろいで頂ける様配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真、花、絵画、ぬいぐるみ、植物等を飾られ個性のある居室となっている。 テレビを持ち込まれている方もあり、自由に視聴出来る様になっている。 部屋にポータブルトイレを置かれている方は布で覆い居心地よく過ごせる工夫をしている。	利用者がホームに馴染んで暮らせるように、自宅で使用していた物は、自由に持ち込める。テレビや調度類、ぬいぐるみや手芸作品・写真など、各利用者はそれぞれ使い勝手がいいように配置している。毎朝、職員が掃除・換気し、日中、使わないポータブルトイレは布を掛け、心地よく過ごせるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	わかりやすい様に、トイレや浴室等部屋ごとにプレートで表示してある。 バリアフリーで安全面にも配慮した作りになっている。 その中で自発的に掃除機やモップかけをしたり、洗濯物をたたんだり、自立した一面を見る事が出来る。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270201132		
法人名	医療法人 翠山会		
事業所名	医療法人 翠山会 グループホームなかよし ユニットB		
所在地	長崎県佐世保市赤崎町81-3		
自己評価作成日	平成28年11月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

清潔に心がけ、毎日の掃除は徹底して行っています。花のある環境作り心がけ精神的に落ち着いて穏やかに生活して頂けるよう配慮しています。
特に食事には力を入れ、栄養のバランスはもちろん、日本の伝統を大切に行事食(正月・盆・彼岸・節句等)を楽しんで頂いています。
身体・精神能力を低下させない為、レクリエーション・手工芸、音楽療法を取り入れ楽しみながらレベル低下を防ぐ支援を行っています。
また季節ごとに行事を企画し、花見(桜・バラ・菖蒲・コスモス等)、公民館祭り等にお連れしたり、母体のすいざん荘の行事に参加させて頂き、外出の機会を多く持つようにしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域に開かれたものになるよう、地域の一員として生活出来るようにとの理念を揚げ、職員全員が理念を共有し、実践支援していくように努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の公民館祭りに参加させて頂いたり、行事の案内をして来て頂いたりしている。 ホーム近くにある食堂から出前を取ったり、地域の商店から食材を配達して頂き、交流する事が出来ている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	小・中・高校の社会科の学習や、短大の福祉科の実習の場として提供し、交流が図れていると同時に認知症への理解も深まっていると感じている。 下校時、トイレを借りに来たり、時間を聞きに立ち寄り、交流をもつ事が出来ている。 子供110番の対応も行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回の会議を開き、利用者様の近況報告や実際の支援の報告等を行い、参加者様からの率直な意見を出して頂き、サービスの向上に活かす様にしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	疑問点などは県・市の長寿社会課や包括支援センターに相談し、解決していく様にしている。 包括支援センターからは入居者の紹介等もして頂いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	言葉使いも含め全職員、身体拘束について正しく理解しており拘束しないケアに取り組んでいるが、1階玄関のみ1階に職員が不在の時は、警察からの指導もあり、不審者等の侵入防止の為施錠を行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人全体で取り組み研修等に参加し学ぶ機会を持っている。 特に新人研修では力を入れて指導している。言葉使いにも折に触れて、その都度注意して行く様にしている。 外泊後は入浴時等に異常がないか確認する様にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度の理解を深め、現在は利用している方はおられないが、今後必要とされる方には、ご家族の意向を聞き仲立ち出来る様にしていきたいと考えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居・退居時には利用者様やご家族様に対して十分な説明を行ない、理解・納得して頂けるよう努力している。 一方的な説明ではなく、必ず、「何か質問はありませんか？」と問いかける様に心がけている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常の会話の中から不満や要望を聞き取り、ケア会議で検討し、改善する様に努めている。 ご家族の面会時に要望を尋ねたり、立ち話ではなく、お茶を出し、ゆっくりした気持ちになって頂き話しやすい雰囲気作りを行っている。 ホーム便りでも呼びかけている。 運営推進会議に参加して頂き、頂いた意見を運営につなげている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議やADL気付きノートから出てきた意見を受けとめ反映する様にしている。 日頃から話しやすい雰囲気作りにつながっている。 行事の後にはその日の内に反省会を行い、次につなげていく様にしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は管理者、職員個々の状況や能力を把握し、給与水準や資格取得の支援等、やりがいを持って働ける様努めている。 また、永年勤続者や研究発表者に対しての評価や労いの言葉をかけ、就業意欲の向上に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	積極的に内外の研修を受ける様に働きかけ多くの職員が受講出来る様にしている。 研修報告を回覧し職員全体のスキルアップを図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会の活動を通して、交流を持ち、勉強会の参加で知識の習得が出来ている。 相互訪問を行う事でよい物を取り入れていき質の向上につなげている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談で生活状態や生活歴を把握するよう努め、本人の心身状態や思いに向き合い安心して利用を始めて頂ける様に心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学訪問時に出来るだけ多くの会話を持ち要望等気軽に言って頂ける様な雰囲気作りをし安心して利用を始めて頂ける様努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の面談で利用者様やご家族の状況を知り、他の事業所からの情報提供を受け、必要なサービスが提供出来る様に支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	季節に合わせた料理作り等、昔取ったかねづかを発揮出来る様な場を作り、長年培われた知恵や知識を頂き支えあう関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族関係を理解し、外泊が無理な方には外出の機会を持って頂くよう働きかけたり、行事参加へのご案内をして一緒に時間を共有して頂ける様にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方の訪問時には、お茶を出し、ゆっくりと過ごして頂ける様に配慮し、大切な関係がより良いものになる様支援している。 電話等も希望される度に対応する様にしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	週6日レクリエーションを行い、他のユニットの方との交流や、洗濯物干し、シワ伸ばし、洗濯物たたみ等、複数の方との関わり合いが出来る場を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居され他の施設や病院へ移られても面会に行く等つながりを断ち切らない様になっている。 亡くなられた時には必ずお悔みに行き、ご家族の気持ちになってお見送りさせて頂く様にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の言葉や日々の行動や表情から思いや要望を読み取り、スタッフ全員が情報を共有し、本人主体の生活が出来られる様に支援している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サービス開始前の調査で個人情報を把握し、全職員が周知し、可能な限りこれまでと同じ様な生活が出来られる様支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	業務日誌・申し送りノート・ADL気付きノート等を十分に活用し、小さな変化も見落とさない様に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族や関係者と話し合いを行い、それぞれの意見を反映しながら、ご本人主体の現状に即した介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録、申し送りノート、ADL気付きノート等を細かく記入し職員間での情報の共有を行う事により日々の支援や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の状況により、通院や買い物支援等、ニーズに対応出来る様取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	小・中・高校の体験学習の場や短大福祉科の実習の場として提供したり、消防や警察からの協力を得て安全で豊かな暮らしを楽しめる様支援している。 米軍ボランティアからの木々の伐採等の協力も得られている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医と連携し適切な医療が受けられる様支援している。 月2回の往診があり、必要に応じて専門医や掛かり付け医の受診をご家族と協力しながら行っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医の看護師に24時間いつでも相談が出来る様になっていて、日常的に行っている。 週に1回は実際にホームへ来て頂き健康チェックをしてもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先や家族に連絡を取り合い、情報交換や相談をしている。 早期退院・退院後の生活についても担当医や看護師からの情報を頂きスムーズに入院前の生活に戻られる様支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医や母体老健との連携が取れていて、特変時には24時間対応出来る様になっている。 看取りについても、意志の確認を取り早期からの話し合いや関係者全体の方針の統一が図れる様努力している。 同意書も頂いている。 グループホーム協議会の看取りの研修に参加し知識を深めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時のマニュアルを作成し、日頃より訓練を行っている。(AED・吸引器) 勉強会や研修会にも参加している。 また、特変時には連絡網でスタッフが駆けつける体制も取っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	入社時より災害時の研修を行っている。避難訓練は消防署の指導を受けながら、年2回行っている。 母体の老健や近隣の方からの応援も受けられる様になっている。 非常食や飲料水も備蓄している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様への尊厳の気持ちを持ち、誇りやプライバシーを損ねる事が無い様、失禁時等の声かけは他の利用者様に気付かれ無い様さりげなく行う等、全職員に周知するようにしている。 人生の先輩として敬意を持って接する様に心がけている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の思いを伝えられる様な雰囲気を作り個々に合った言葉かけを行い、自己決定出来られる様支援している。 行事や花見等も自由参加としている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望に合わせてレクリエーションや入浴、手工芸等を行っているが、無理強いせず、ペースに合わせて過ごして頂ける様に支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合わせた洋服の組み合わせ等を一緒に考え支援している。 パーマやカット等は美容室より出張で来て頂いている。 行事参加の際には浴衣を着たり、お化粧も楽しまれている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の準備、盛り付け、配膳、下膳等能力に応じて参加して頂き、職員も一緒に同じ場所で食べ楽しみを共有している。 肉が嫌いな方には別の物を出す等配慮している。 誕生日ではご本人の好きな物を聞きお出しする様にしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量を毎食記入し食事量を把握している。 食欲不振の方には別の物を出す工夫を行っている。 夜間の水分補給も個々に準備し、自由に飲める様にしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛け・見守り・介助して口腔ケアを行い口腔内の清潔保持に努めている。 歯科受診の必要な方は往診で治療を受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	食事の前後や利用者様の表情を読み取り、トイレ誘導を行っている。 失敗されても他の利用者様に気付かれ無い様支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維質のある食材を多く取り入れ、水分量や食事量にも注意し運動を促している。 また牛乳・クールソフトも取り入れる様にしている。 排便状態を記録に残し排便困難な方には主治医と相談し服薬支援も行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週3回を目安に入浴を行っているが、ご本人の希望に合わせてシャワー浴や足浴で対応し、入浴を楽しんでもらえるよう支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は出来るだけ活動して頂き、夜間の睡眠が十分にとれる様な働きかけを行っている。 室温や寝具の調整にも気を配っている。 午睡も自由にして頂き疲れられない様配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方内容を必ず確認し、用法・用量を把握している。 誤薬が無い様必ず複数で確認する様にしている。 他科受診の薬の受け取りにも十分注意し、服薬介助依頼書を頂いている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一緒に花の植え替えをしたり、つわやふき、竹の子の皮むき等をしたり、これまでの生活歴を活かした支援を行っている。 また季節ごとの行事に参加して頂き楽しんで頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節に応じた花見やドライブ、買い物支援を行っている。 年1回外でのバーベキューも楽しまれている。 可能なご家族には、外出・外泊の協力を頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時、買い物をされる場合はご自分で管理出来る方にはお渡しし、難しい方には一緒に付き添い支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	プライバシーが守られる様子機を利用し、居室で使える様支援している。 手紙のやり取りが出来る方には、切手・葉書の購入支援も行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花々を飾ったり、ネームプレートには季節感が感じられる様な飾り付けをしている。 レースのカーテンを使用し光に対しての対応をしている。 ホールにはテレビ・ソファを設置し、ゆっくりくつろいで頂ける様配慮している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはソファを置き、和室もあり、エレベーターまえには木のベンチを設置し、それぞれ好きな場所で思い思いにくつろいで頂ける様配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真、花、絵画、ぬいぐるみ、植物等を飾られ個性のある居室となっている。 テレビを持ち込まれている方もあり、自由に視聴出来る様になっている。 部屋にポータブルトイレを置かれている方は布で覆い居心地よく過ごせる工夫をしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	わかりやすい様に、トイレや浴室等部屋ごとにプレートで表示してある。 バリアフリーで安全面にも配慮した作りになっている。 その中で自発的に掃除機やモップかけをしたり、洗濯物をたたんだり、自立した一面を見る事が出来る。		